



膠

にかわ



三千本膠（奥）、鹿膠（手前）

概要

膠（にかわ）は、古くは古代壁画や原始絵画の時代から使用され、現在でも日本画の制作においては、画面と絵具を接着するものとして重要な素材です。

原料は動物の骨、皮、腸、腱であり、それらを煮出し、コラーゲンという繊維質の高タンパク排出液を濃縮し、固め、乾燥させて造られます。現在は主に牛を原料とする牛膠がほとんどですが、日本ではかつて鹿の膠が多く使用されていたため、鹿膠という名称のみが残っています。その他、魚膠（にべにかわ） 兎膠（主にテンペラに使用）等があり、世界各地の民族は各々に入しやすい動物を原料として利用し製造をしていたといえます。

日本画に使用される膠は、三千本膠、鹿膠、パール膠、板膠等があり、一般的に使用される三千本膠は、一貫目（約3.75kg）の膠液から膠が三千本造られることからそのように呼ばれることとなりました。また、膠の品質は、硬質で透明度の高いものが良質とされています。

膠の使用方法は多様で、一種を使用したり何種か混ぜたりと各々が使用しやすい方法を模索することが可能です。現在では樹脂系の膠も開発されており、強靱な定着が得られますが、一度硬化すると水では戻らないため、画面から絵具を洗い取るなどする場合は不向きです。保管については、古くなった膠は定着が弱まるため、大量購入を避け、風通しの良い冷暗所で短期間だけ保存するように心がけましょう。

膠は、日本画の材料を取り扱う画材店の他に、一般的な画材店でも購入できます。

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数字

膠液をつくる（三千本膠の場合） 参考例 1



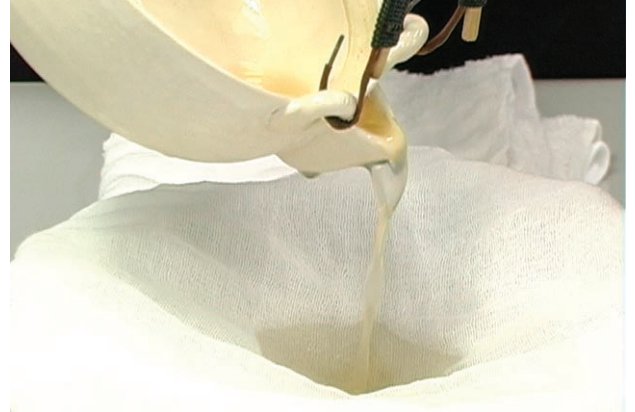
手順 1. 三千本膠 1 本を布でくるみ、膠鍋に入る大きさに折ります。



手順 2. 折った膠を膠鍋に移し、50～100ccの水で浸します。これを一晚置き、柔らかくします。



手順 3. 柔らかくなったら、湯煎で煮て溶かします。その際、沸騰させないようによくかき混ぜながら溶かします。



手順 4. ガーゼをかけたボウルを用意し、膠が完全に溶けたらボウルに注ぎ入れます。ガーゼで漉して不純物を取り除いたら完成です。

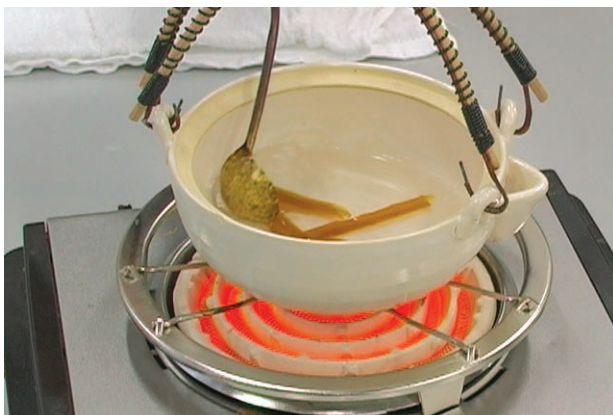
膠液をつくる（三千本膠の場合） 参考例 2



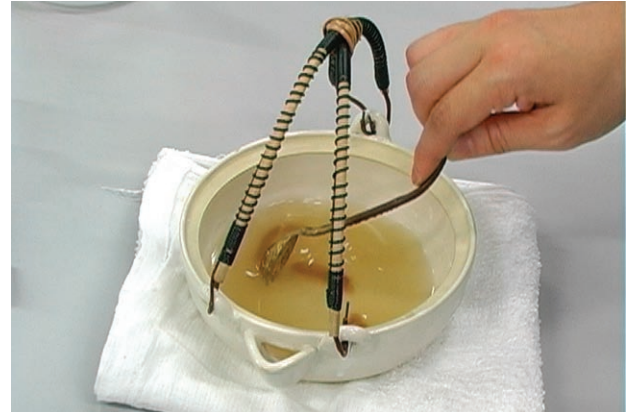
手順 1. 三千本膠 1 本を布でくるみ、膠鍋に入る大きさに折ります。



手順 2. 折った膠を膠鍋に移し、50～100ccの水で浸します。



手順 3. 膠鍋が割れないように直火を避けて温めます。その際、膠鍋の底に膠が付着しないよう、膠匙でかき混ぜます。



手順 4. 沸騰しそうになったら電熱器からおろしてかき混ぜます。冷めてきたら、溶けきっていない膠を溶かすため、再度電熱器にのせて温めます。完全に溶けるまで、これを何度か繰り返します。



手順 5. ガーゼをかけたボウルを用意し、膠が完全に溶けたらボウルに注ぎ入れます。ガーゼで漉して不純物を取り除いたら完成です。